

学生生活の手引き

令和6年度(2024年)用



学校法人 有坂中央学園

中央動物看護専門学校



マーク・デザインコンセプト

- 親鳥は雛鳥の卵が孵化寸前になると、その事を本能で知覚し、くちばしで卵の表面に小さな穴を開け、雛鳥の誕生を手伝います。これを啐啄（そったく）といい、禅道において弟子が悟りを開く寸前に、師匠が悟りに導くため手助けすること、師と弟子の機運が熟することを意味しており、これがマークの基本コンセプトになっています。
- 狙った魚を素早い動きで確実に捕るエネルギッシュで若々しいイメージをもった、カワセミをモチーフに、この“カワセミ（若者）が殻を破って誕生するのを手助けする”というストーリーをデザイン化しました。「社会」という大空へはばたく若者を「教育」という大きな愛でサポートする、といったスクールイメージを表したマークです。
- カワセミの家系図は“ブッポウソウ目カワセミ科”。宝石のような美しさから“翡翠（ひすい）の鳥”と呼ばれたこともあり、貴族の国イギリスでは、狙った獲物は決して逃がさない、百発百中“百鳥の王”の一族として“King Fisher”と呼ばれています。

令和6年度 学生生活の手引き

目 次

第1章 学生生活の心得

1. 教 育 目 標	1
2. 通 学	4
3. 出 欠 席	5
4. ク ラ ス 運 営	5
5. 諸 届 ・ 諸 証 明	5
6. 設 備 利 用	7
7. 諸 連 絡	7
8. ア ル バ イ ト	7

第2章 履修要項

1. 授 業	9
2. 成 績 評 定 試 験	10
3. 単位の認定と成績評価	10
4. 成 績	10
5. 大 学 編 入	11
6. 行 事	12

第3章 進級・卒業に関する基準

1. 出 欠 席 基 準	14
2. 休学・退学・除籍	15
3. 進 級 ・ 卒 業	16

第4章 生活安全の手引き

1. 生 活 安 全 セ ン タ ー の 設 置	19
2. 生活安全センターからの注意事項	19
3. 中央コミュニケーションサロンの設置	19
4. 安定した気持ちで学校生活を送り、社会で活躍できる 人になるために	21

第5章 表	彰	
1. 卒業時表彰	23
第6章 各種証明書発行手続等		
1. 学生証	24
2. 各種届書一覧	24
3. 諸証明の発行	25
4. 通学定期券等の購入	25
資料		
通学規程	26

第1章 学生生活の心得

1. 教育目標（本学生がめざすもの）

動物福祉の精神に立ち動物を慈しむ優しい心を持つ

人と動物のより良い関係づくりを目指し
人と動物の両者に対して情熱を傾けられる人材

失敗から学ぶ心と方法を知る

試行錯誤を通して、仕事を学ぶ「心」と「方法」を体得できる人材

スペシャリストに必要な知識と技能を身に付ける

動物看護・動物飼育・動物美容の知識とスキルを学び、その専門性に
特化した人材

豊かな人間性とビジネスマナーを兼ね備える

生き生きと社会で活躍するために必要な豊かな人間性と
飼い主とのより良い人間関係を築くための
コミュニケーション能力を兼ね備えた人材

本校は、所定の課程を通じて、高度な知識と技術を教えるとともに、社会に貢献できる豊かな人間性を育むことを最大の教育目標としている。

社会は、単に言われた通りに仕事ができる人間ではなく、与えられた環境の中で何をなすべきかを考え、その実現に向けて自らの意思で行動できる、明るく積極的な人間を求めている。その積極的な行動力は、人から教えてもらうのではなく、さまざまな体験を通じて、事実を把握する眼、本質を見抜く力を養いながら身に付けることができる。実社会で切に求められている問題解決能力も、主体的なものごととの関わりを通して育まれる。本校のモットーである『やって・見て・考える』はまさにそのことを表現したものといえる。

したがって本校の学生には、「体験から学ぶ」ことの大切さを理解し、「自ら学び、自ら行動する」（＝本校ではそのことをボランティア活動という）ことを通して有意義な学生生活を送れるよう心がけてもらいたい。学習活動のみならず学内外の諸活動、仕事（アルバイト）なども貴重な体験である。そのような幅広い体験から学ぶことによって、一人ひとりのゆるぎないアイデンティティを確立してほしい。

(1) 学園生活について —豊かな人間性を築くために—

本校では、価値観が多様化し、よりよく生きる生き方が難しい昨今、より“自分らしく生きる力”をもって社会に羽ばたいて欲しいと考えている。

自分らしい生き方を実現するための3つのチカラを18のコンピテンスに定めた。



◆ 豊かな人間性

① 礼節

礼儀を重んじ他人への敬意を示し、節度ある行動や態度をとる

② 誠実性

何事にも正直であり、真摯な態度で責任感を持って行動する

③ 主体性

自らの意思や判断に基づき、責任感を持って行動する

④ 挑戦する力 (向上心)

新しいことに積極的に取り組むことができる能力

⑤ やり抜く力

情熱をもってひたむきに取り組み、あきらめずに努力し続ける能力

⑥ 思いやりの心・感謝の心・奉仕の心

常に三つの心を持ち合わせる

◆ 創造的な協働力

⑦ 多様性・価値観を認める力

他者との異なる意見や背景を尊重し、包括的な視点を持つことができる能力

⑧ 自己表現力

自分の考えや意見を様々な手段でわかりやすく伝えることができる能力

⑨ コミュニケーション力

効果的に情報を交換し、相互理解に基づく人との関係性を築く能力

⑩ イノベティブ思考力

問題の存在を把握し、解決すべき課題を設定できる能力。事実を観察し、既存の解決方法に捉われず、全く異なるアプローチや発想を組み合わせて創造的に問題を解決する力

⑪ 論理的思考力・批判的思考力

物事を体系的に整理して、筋道を立て根拠から結論を導き出す能力

情報の信憑性や論理の妥当性を検証し、独自の意見を主張出来る能力

⑫ 適応力

新しい環境・予想外の状況・困難な状況に柔軟に対応し、パフォーマンスを発揮できる能力

⑬ リーダー力・フォロワー力

明確なビジョンや目標を持ち、それを他の人々と共有することができる力

チームやグループの方向性に沿って、目標に向かって皆の行動を促す。又は、行動を共にし、支援者として協働する力

◆ 高度な専門性

⑭ 専門的な知識

⑮ 技能技術

⑯ 職業倫理

⑰ コンプライアンス

⑱ 職業実践力

(挨拶) 明るく元気よく、礼儀正しく

①挨拶は人間関係の始まりであり、成長した証である。自ら挨拶をしよう。

②教務室等の入室については、次のことに注意しよう。

入室時には「失礼します。〇〇学科〇年〇〇（名前）です。〇〇先生に用
があつて来ました。」と、大きな声で。

退室時には「失礼しました」を忘れずに。

③授業開始時は号令（起立・注目・礼・着席）と共に挨拶をしよう。

④来校者への挨拶をしよう。

（受 講 等） 真剣に聴く

①時間厳守に心掛け、授業時間までに着席すること。

②授業中に入退室するときは、担当教員の許可を受けること。

③他人の迷惑になるような行為は慎むこと。

④授業中は、机上に飲食物など必要ないものを置かない。また、携帯電話は
電源を切るかマナーモードにし、指示がない限り使用を禁止とする。

（喫 煙） 登校から下校までの間、喫煙（電子タバコ含む）は原則禁止

①成人者であっても、学校敷地内における喫煙は禁止する。

②学校の敷地周辺においても、喫煙は禁止する。

③違反者については、厳重に処罰する。

（美 化） 勉強に相応しい環境を作る

①常に整理整頓に心掛け、環境美化に努める。

②学校施設内はもちろん、近隣の人々の迷惑になるので、付近にゴミを捨てな
いこと。

③空き缶・ゴミなどの放置を見かけたら、積極的に片付けること。

④教室は各クラスの責任で掃除すること。

⑤ゴミは表示に従い必ず分別すること。

⑥地域の美化に努める。

（節 電） 節電に協力しよう

①教室を最後に出る人は、消灯すること。

②エアコンを利用する際は、教員の許可を得ること。

（危機管理） 交通事故をはじめ校舎内外にて事故に遭わないよう注意する

（そ の 他）

①共有スペースにて他の人の迷惑にならないよう心掛ける。（座りこみ等）

2. 通 学

（1）本校への通学は、原則的に公共交通機関か徒歩または自転車によるものと

する。ただし、次の場合のみ、車両（自動二輪及び原付を含む）通学を許可する。従って、許可を受けない車両通学は認められないので注意すること。

詳細は P26「通学規程」による。

①許可基準

a. 交通機関の便が悪く、通学に不便な者。

但し、自動車通学に切り替えても、長時間かかり、かえって危険になるおそれのある者は最寄り駅までの許可とする。

b. その他、自動車通学を必要とする特別な理由が認められる場合。

②問合せ・申請

学生課窓口にて行う。

③違法駐車

校内及び校外における違法駐車については厳重に処罰する。

3. 出 欠 席

(1) 本学園では、人間教育の立場から、とくに出席に重きを置いている。

欠席・遅刻・早退のないよう最大限努力しなければならない。

(2) 欠席・遅刻・早退等の場合、原則として担任に連絡の上、事前またはやむを得ない場合は事後に届書を担任まで必ず提出すること。

(3) 公欠については第3章の公欠基準による。

4. ク ラ ス 運 営

(1) クラス委員（委員長1名、副委員長1名以上）を必ず選出し、クラス委員を中心に、より良い学校運営、クラスの円滑な運営のために協力すること。

(2) 各学生は担任及びクラス委員と協議の上、日々の学生生活においてクラス全体の向上のために、お互いに協力しあうこと。

5. 諸 届 ・ 諸 証 明

(1) 本校においては、下記に掲げる届書・願い書を提出することが義務付けら

れている。届け出なければならない時、及び届け出方法に関しては別掲されているので、ここではその項目を掲げておく。

(第6章、各種証明書発行手続等)

- a. 授業に関する届書
 - ・ 欠席届
 - ・ 欠課届
 - ・ 公欠届
 - ・ 遅刻届
 - ・ 早退届
- b. 就職活動に関する届書
 - ・ 内定届
 - ・ 承諾届
 - ・ 就職活動申請・報告書
 - ・ 就職試験受験申請・報告書
- c. 休退学に関する願い書
 - ・ 休学願
 - ・ 復学願
 - ・ 退学願
- d. その他の届書
 - ・ 身上異動届
 - ・ 学費延(分)納願
 - ・ 事故報告書
 - ・ 出席停止届出書
 - ・ 学生証再発行願

(2) 各種証明書

以下の証明書の申し込み・手数料並びに交付については、別掲とする。

(第6章、各種証明書発行手続等)

- ・ 学生証(身分証明証)
- ・ 在学証明書
- ・ 卒業証明書
- ・ 卒業見込証明書
- ・ 成績証明書

- ・ 運賃割引証（学割）
- ・ 通学証明証
- ・ 健康診断書

6. 設 備 利 用

- (1) 実習室等の時間外利用希望者は担任もしくは学校教員に申し出て許可を得ること。
- (2) 学校設備・機器利用希望者は担任の許可を得ること。
- (3) 保健室の利用について
 - ・ 保健室を利用する場合は、必ず職員の許可を得ること。
 - ・ 保健室の利用は原則 90 分までとする。体調が回復しない場合は、早退すること。
 - ・ 発熱（37.5℃以上）の場合は、保健室を利用せず速やかに医療機関を受診すること。
 - ・ 学校から内服薬（市販品含む）の提供はしない。
 - ・ 保健室での飲食は禁止とする。ただし、水分補給が目的の場合はその限りではない。

7. 諸 連 絡

- (1) 諸連絡はホームルームにおいて担任によって行われる。
- (2) クラスの掲示物については毎日確認すること。見落とすと卒業・進級に関わる場合もあるので注意すること。

8. アル バ イ ト

アルバイトの目的と目標を職業教育における『仕事体験』の一貫として、何を学び、何を得るか、『しっかりした位置付け』をして行うことが重要である。また、アルバイトを行う場合は、以下の点に注意すること。

- ①アルバイトをする際は、事前に担任へアルバイト先情報（店舗名・勤務時間・勤務日数等）を申告すること。ただし、風俗営業等の規則及び業務の適正化等に関する法律（風営法）第2条第1項で定められた「風俗営業」に当てはまる業種（※）で学生生活および本校の掲げる「豊かな人間性」の健全な育成に支障をきたす場合は認めない。

- ②アルバイトによって学業に支障が出ないよう自己管理を徹底すること。
- ③アルバイトを理由とした学校行事や飼育当番、清掃当番、補習などの欠席は認めない。
- ④アルバイト先で得た情報を他人に漏らしたり、撮影した画像や動画を SNS へ投稿したりしないこと。

※風俗営業に当てはまる業種



第2章 履修要項

1. 授 業

(1) 学期

各学年、前後期制とし、成績評価は学期ごとに行う。

同一科目で、基礎・応用のように継続する科目に関しては基礎の内容を理解していないと、応用の内容についていけなくなるので、基礎科目については、確実に学んでほしい。

(2) 通常授業時間

ホームルーム……………	9時10分～9時20分
1時限……………	9時20分～10時50分
2時限……………	11時00分～12時30分
昼休み……………	12時30分～13時20分
3時限……………	13時20分～14時50分
4時限……………	15時00分～16時30分
ホームルーム……………	16時30分～16時40分

(注) 試験前の特別期間等においては曜日・時間等を変更する場合もある。

なお、16時40分以降に特別授業が実施される場合もある。

(注) 飼育管理当番の場合は各班で指定された時間までに登校する。

(注) ホームルーム後、掃除当番は決められた場所の掃除を行い、教員に確認をもらうこと。

(3) 授業の出席について

所定の時間割にしたがって行われる授業には必ず定刻に出席し、学習に努めなければならない。

やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前に当該科目毎に担当講師に申し出ること。

なお、以下の事由に該当する場合は欠席とする。

- ①授業開始時刻より30分以上遅刻した場合
- ②授業終了時刻より30分以上前に早退した場合
- ③授業中、無断で退室した場合
- ④居眠りや携帯電話等の操作により授業を受ける意思が認められない場合

⑤私語や他人に迷惑を及ぼす行為、その他、授業妨害と担当教員が判断した場合

(4) 飼育管理当番について

本校は、共に生活をする飼育動物（以下「ファミリー動物」と呼ぶ）の飼育管理を学生が中心となって実施する。学生たちは、ファミリー動物の命と健康を守るために責任を持って取り組まなければならない。

※詳細については「飼育管理マニュアル」参照。

2. 成績評定試験

(1) 成績評定試験

成績評定のための試験は、期末試験（前期・後期）時に行う。試験の時間割に関してはその都度、掲示又は告知する。

ただし、授業数の70%以上出席しない場合、成績評定試験の得点に関わらず不合格（評定D）とする。

(2) 成績評定試験・追試験の受験心得

①試験において不正行為を行った場合や、私語等他人に迷惑を及ぼす行為を行った場合は、答案を没収し、退出を命ずる。またその科目についての受験を無効とする。

②テキスト・参考書・プリント類等は科目ごとに持ち込みの許可・不許可を、時間割発表の際にその都度指示又は告知する。

3. 単位の認定と成績評価

(1) 単位の認定

授業科目の単位は、原則として期末試験（前期・後期）を行い、合格したときに初めて認定される。試験の方法は、筆記試験・レポート等によるが、実技・出席等の平常の成績及び学習態度や検定試験の結果などを加味して試験成績とする場合もある。

4. 成 績

(1) 各科目の評定は上位よりS・A・B・C・Dの5段階とする。なお、D評

定は不合格とする。

(2) 評定については次の諸項目を総合的に判断して行う。

①成績評定試験得点

②期末試験（試験当日欠席もしくは40点未満について評定はDとする）

＊公欠に該当するものは別途期末試験を実施

③出席率（出席率が70%に満たない場合は、単位不認定のため必ず決められた日に補習を受ける。）

④各教科独自で行う試験・小テスト

⑤実習のある科目についてはその能力

⑥授業態度

⑦検定試験の結果

⑧その他

(3) 科目評定がDの者に対しては、D評定となった科目ごとに追試験またはレポート提出等を行う。また、追試料（1,000円/科目）を現金で支払わなければならない。

以下の事由に該当する場合は、不合格とする。

①追試料を支払わなかった場合

②追試験またはレポート提出等の課題を履行しなかった場合

もしくは、各教科担当が定める期日までに履行しなかった場合

③レポート提出等の課題はあったが設定した基準に満たない場合

④追試験の結果が設定した基準に満たない場合

※③④における基準の設定については、各教科担当の判断とする。

(4) 科目評定がDの者に対しては、D評定となった科目ごとに補習を行う。補習料（1,000円/科目）を現金で支払い、各教科担当と学生との間で日程の調整を行い実施すること。補習が修了しなかった場合は不合格とする。

5. 大学編入

1998年6月の学校教育法により、①修業年限2年以上②卒業までに受けた総授業時間数が1700時間以上の文部科学省認定専修学校(本校該当)卒業生には、大学3年次編入の門戸が広く開かれることとなった。また、2005年9月の学校教育法により、①修業年限4年以上②卒業までに受けた総授業時間数が3400時間以上の文部科学省認定専修学校(本校該当)卒業生には、大学院入学の門戸も広く開かれることとなった。そこで、本校では学生の進路選択の幅を拡げるという見地から、積極的に大学3年次編入・大学院入学を推進すべく、希望者を支援する体制をとっている。希望者は、早めに担任に申し出ること。

6. 行事

(1) 国内研修旅行(1泊2日)

国内研修旅行を通じて、日常生活から離れた環境の中でどう行動すればよいかを楽しみながら学んでもらうことを目的として実施している。テーマを決めてのグループ活動や、普段交流のない他クラスの学生との親睦がはかれるなど学生生活の大きなイベントの1つとなっている。

(2) 研究活動(フィールドワーク・卒業研究)

この活動は、学生が自主的にテーマを設定し、校内に限定されることなく、自由に研究活動を行い、その成果を発表しあうものである。チームワークの大切さ、テーマ設定から発表までの一連の活動は社会で大いに評価されている分野である。

(3) かわせみ祭(学園祭)

学生生活での最大のイベントである。各学年で模擬店を出店し、経営についての疑似体験をする他、日頃の教育の成果を展示・発表する場でもある。また、学生実行委員会を中心にイベントの企画・運営も学習してもらいたい。

(4) スポーツ大会

スポーツを通じて学生・教職員間の交流を深める。また、健康増進に寄与しスポーツの大切さを改めて理解してもらいたい。

(5) SDG s ワークショップ

2000年に採択されたMDG s（国際ミレニアム開発目標）が2015年に終了するのに伴い、2016年から開発目標を定めたもの。防災やエネルギー、経済格差や若者の失業など新しい課題も含まれる。本校では、ワークショップを通じてSDG s に対する理解を深め学校及び個人の行動計画を立案、実施する。

(6) 各種ボランティア活動

企業や動物関連団体から依頼を受けて実施するボランティア活動である。任意の参加となるが、動物業界との繋がりを持てたり、就職内定に結び付いたりするケースもある。積極的な参加を心がけてもらいたい。

第3章 進級・卒業に関する基準

1. 出欠席基準

(1) 欠席

- ①欠席しなければならない者は、欠席前日までに、「欠席願」を提出する。
- ②やむを得ない場合、朝9時まで原則本人が学校へ電話連絡をする。
電話連絡が困難な状況がある場合は、保護者の連絡も認めるが、家族以外の第3者（クラスメイト含む）からの連絡は原則認めない。
後日「欠席届」を担任に提出しなければならない。
- ③②の場合で、欠席2日以上に及ぶ場合は、その日ごとに必ず担任へ連絡をしなければならない。
- ④連絡もなく欠席をした場合は無断欠席となる。
- ⑤連続して欠席した場合もしくは1日でも無断欠席をした場合は、その理由を保護者に確認することがある。

(2) 遅刻・早退

- ①通常授業時間までに入室しなかった者を遅刻とする。
- ②16時30分以前に下校した者を早退とする。
- ③遅刻、早退をする場合は、前日までに「遅刻・早退願」を担任に提出しなければならない。
- ④やむを得ない場合は、遅刻については当日朝9時まで学校へ連絡し、登校後「遅刻届」を担任に提出しなければならない。
早退については下校前に「早退届」を担任に提出しなければならない。

(3) 無断欠席

連絡をせずに欠席・遅刻・早退をしてはならない。そのようなことが生じた場合には、指導を行い、改善が認められない場合、退学を含めた処分を科す場合がある。無断欠席については、特に厳しく対処する。

(4) 公欠基準

届出のある、次のような場合は公欠とし、欠課数・欠席数に数えない。

- ①親族の不幸（忌引）
 - a. 父母・兄弟姉妹：5日以内（特別な事情があれば考慮）
 - b. a以外の親族：3日以内（特別な事情があれば考慮）

- ②就職活動（説明会、試験、面接）
- ③就職先から正式に依頼のあった研修
- ④動物施設実習（学校指定）
- ⑤公共交通機関の停止もしくは遅延により、登校不可能の場合
- ⑥居住地の天災
- ⑦法定伝染病による隔離を受けた場合
- ⑧インフルエンザ等、医師の診断による学校指定の証明証もしくは診断書を提出した場合
- ⑨新型コロナウイルスの対応については、本校のガイドラインに準ずる。
- ⑩自動車免許の取得（卒業検定1日・本免学科試験1日）
※各試験とも1回までの認定とする。
- ⑪その他、特別な事由により正当性があると学校長が認めたもの

(5) 欠席換算

遅刻・早退は3回で欠席1日分と換算し、年間欠席日数に加算する。

(6) 愛玩動物看護師国家資格受験資格許可基準

- ①受験日までに換算欠席日数が20日以内の者
- ②国家試験受験日前日までに70%以上出席がある者
- ③願書出願時卒業見込み証明書が発行できる者
- ④その他、受験許可に相当する事由があり、学校長から推薦された者

2. 休学・退学・除籍

(1) 退学・除籍処分は学校長がこれを認定する。

(2) 次に該当する者に対しては、退学等の処分をすることがある。

- ①性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- ②学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- ③正当な理由がなくて、出席が常でない者
- ④教職員の指示に反し、学校の秩序を乱した者
- ⑤交通事故・違反などにおいて著しく過失のある者等法律に違反した者
- ⑥校納金もしくは学級費の支払いが認められない者
- ⑦以上のほか本校の学生として不適格と判断された者

(3) 休学・退学に関しては、本校所定の手続きをとること。

(第6章 2. 各種届書一覧を参照)

3. 進級・卒業

(1) 進級・卒業は学校長がこれを認定する。

(2) 進級基準

次の基準を満たした者について進級を認定する。

①年間換算欠席日数が20日以下の者

②全科目評定合格者

1年次履修基準を満たす者（動物看護学科は2年次含む）

動物看護学科

1年次履修基準：840時間、30単位以上の単位を履修すること。

2年次履修基準：1,680時間、60単位以上の単位を履修すること。

動物飼育学科

1年次履修基準：1,110時間、39単位以上の単位を履修すること。

動物美容学科

1年次履修基準：930時間、33単位以上の単位を履修すること。

(注) 出席率が70%に満たない場合、当該科目の成績評定試験の得点に関わらず不合格（評定D）とする。

(3) 卒業基準

次の基準を満たした者について卒業を認定する。

①年間換算欠席日数が20日以下の者

②卒業基準の検定試験に合格した者（各学科の履修する検定試験に合格した者）…下記学科別卒業資格基準を参照

③全科目評定合格者

卒業履修基準を満たす者

動物看護学科

卒業履修基準：2,490時間、89単位以上を履修すること。

動物飼育学科

卒業履修基準：1,950時間、69単位以上を履修すること。

動物美容学科

卒業履修基準：1，800時間、64単位以上を履修すること。

(注) 出席率が70%に満たない場合、当該科目の成績評定試験の得点に関わらず不合格(評定D)とする。

(4) 卒業資格基準(検定)

下記に掲げる検定試験のうち3科目以上合格すること。

① 動物看護学科

- ・愛玩動物看護師国家資格(動物看護師統一認定機構)
- ・動物健康衛生管理士1級(全国動物専門学校協会)
- ・サロントリマー検定2級(全国動物専門学校協会)
- ・愛玩動物飼養管理士2級(日本愛玩動物協会)
- ・ペット栄養管理士(日本ペット栄養学会)
- ・社会人常識マナー検定3級(全国経理教育協会)
- ・ペットフード/マナー検定(ペットフード協会)
- ・※愛玩動物飼養管理士1級(日本愛玩動物協会)
- ・※社会人常識マナー検定2級(全国経理教育協会)
- ・※電話応対技能検定3級
- ・※スクーバダイビング(PADI認定)
- ・※乗馬ライセンス5級(全国乗馬倶楽部振興会)
- ・※乗馬ライセンス4級(全国乗馬倶楽部振興会)
- ・※潜水土国家資格(安全衛生技術試験協会)

② 動物飼育学科

- ・動物飼育管理士(日本動物飼育協会)
- ・愛玩動物飼養管理士2級(日本愛玩動物協会)
- ・生物分類技能検定4級(自然環境研究センター)
- ・動物健康衛生管理士2級(全国動物専門学校協会)
- ・ペットフード/マナー検定(ペットフード協会)
- ・社会人常識マナー検定3級(全国経理教育協会)
- ・※愛玩動物飼養管理士1級(日本愛玩動物協会)
- ・※潜水土国家資格(安全衛生技術試験協会)

- ・※スクーバダイビング (PADI 認定)
- ・※乗馬ライセンス 5 級 (全国乗馬倶楽部振興会)
- ・※乗馬ライセンス 4 級 (全国乗馬倶楽部振興会)
- ・※ペット栄養管理士 (日本ペット栄養学会)
- ・※グリーンセイバー (樹木・環境ネットワーク協会)
- ・※ビオトープ管理士 2 級 (日本生態系協会)
- ・※生物分類技能検定 3 級 (自然環境研究センター)
- ・※社会人常識マナー検定 2 級 (全国経理教育協会)
- ・※電話対応技能検定 3 級 (日本電信電話ユーザ協会)

③ 動物美容学科

- ・PEIA ゴールドクラス (ペットエステティック国際協会ジャパン)
- ・PEIA シルバークラス (ペットエステティック国際協会ジャパン)
- ・PEIA ブロンズクラス (ペットエステティック国際協会ジャパン)
- ・サロントリマー検定 1 級 (全国動物専門学校協会)
- ・サロントリマー検定 3 級 (全国動物専門学校協会)
- ・愛玩動物飼養管理士 2 級 (日本愛玩動物協会)
- ・動物健康衛生管理士 2 級 (全国動物専門学校協会)
- ・ペットフード/マナー検定 (ペットフード協会)
- ・社会人常識マナー検定 3 級 (全国経理教育協会)
- ・※潜水士国家資格 (安全衛生技術試験協会)
- ・※スクーバダイビング (PADI 認定)
- ・※乗馬ライセンス 5 級 (全国乗馬倶楽部振興会)
- ・※乗馬ライセンス 4 級 (全国乗馬倶楽部振興会)

※は任意取得

第4章 学園生活を安全・快適に送るために

1. 生活安全センターの設置

当校では、学生ならびに学校周辺の安全を確保するため、「生活安全センター」を設置している。専属のセンター職員が、学園内および学園周辺を巡回するなどして日頃から学園の安全対策を実施し、生活上のさまざまなトラブルの相談やアドバイスをしている。

困ったり、悩んだりしたら、すぐに学園生活安全センターにご相談ください。

2. 生活安全センターからの注意事項

(1) 交通事故に遭わない・起こさない

交通事故は、朝夕のラッシュ時間帯に多発しています。ゆとりをもって登校しましょう。特に、マイカー通学者はできる限り早めに家を出て心に余裕のある運転を心掛けましょう。

○速度の出し過ぎ、脇見・うっかり・ぼんやり運転に注意して交通事故防止に努めましょう。

○運転者、同乗者も必ずシートベルトを着用しましょう。

○歩行者・自転車も見通しの悪い交差点や道路横断時は、必ず一旦止まって左右の安全確認をしましょう。

○自動車の運転中はもちろん、歩きながら、自転車に乗りながら携帯電話等の「ながら操作」は絶対にやめましょう。

*2021年4月1日施行「群馬県交通安全条例」改正により、自転車利用者については保険加入を義務化、加えてヘルメットの着用を努力義務化しています。

(2) 車の盗難や車上狙いの被害に遭わない

ここ数年来、県内で自動車やバイク盗及び車上ねらい等の被害が多発しています。ちょっとした注意で被害は防げます。

○車から離れる時は必ずキーロックしましょう。

○車内にバッグなどを放置しないようにしましょう。特に、バッグを外から見える様な状態で置くことは絶対にやめましょう。

(犯人に「私のバッグを盗って下さい」と言っているのと同じことです)

(3) チカン・ストーカー行為などに遭わない

人目につきにくい駐車場・空き地・通学路では、露出犯などのチカンが出没したり、見知らぬ人から声をかけられたり、付きまとわれたりといったストーカー行為が起きやすい危険ゾーンです。

- 平素から周囲に対する警戒心を高め、不審者に気をつけましょう。
- 登下校は、なるべく複数でかつ明るい人通りの多い道を選びましょう。
- 夜間で危険が予想される時は「防犯ベル」をすぐ使える状態で携行しましょう。
- 服装にも十分注意しましょう。

(4) 携帯電話・スマートフォン等でトラブルに巻き込まれないように注意しましょう

携帯電話等は、非常に便利な道具です。ですが、使い方を誤ると日常生活に支障が出たり、友人関係とのトラブルや犯罪に巻き込まれたりする危険性がありますので十分な注意が必要です。

- SNSを含むインターネットで他人の悪口を書いたり悪質な投稿を行ったりしないようにしましょう。
- 「出会い系サイト」にアクセスをしないようにしましょう。
「見ない」「書き込まない」「絶対にあわない」
- 身に覚えのない料金請求のメール・郵便物等は、相手方に連絡せず「無視」しましょう。連絡することによって犯人のワナにはまります。
「連絡はちょっと待て 確認・相談忘れずに」
- 「デート商法」「アポイントメント商法」「マルチ商法」など甘い誘いに安易に乗らないようにしましょう。
「うまい話に落とし穴あり」

(5) 覚せい剤・大麻・合成麻薬・危険ドラッグ等には、絶対手を出さない

ここ数年来、全国的に一部の若者等の間に覚せい剤・大麻・合成麻薬・危険ドラッグなどが乱用され、大きな社会問題になっています。一度使うとやめられなくなり、心や身体が破壊され、場合によっては死亡することもあります。

- 「みんながやっている」「一度ぐらいなら」「痩せられる」などと友達等から誘われても、キッパリと断りましょう。

「一度だけが身の破滅、薬物はダメ、絶対ダメ。」

3. 中央コミュニケーションサロンの設置

当校では、学生の「こころのケア」を目的として、コミュニケーションサロン（カウンセリングルーム）の設置、および、相談メール・相談LINEの開設を行い、専属のカウンセラーが、学生の相談を受けて面談を行っている。

どんな小さなことでも、心配なことや困ったことがあれば、いつでも気軽に相談してください。

4. 安定した気持ちで学校生活を送り、社会で活躍できる

人になるために

- (1) 心身ともに健康な状態で、学習に集中して専門的な力を身に付けていく
身体の健康については、病気や怪我をしないように自分で体調を管理していくことは当然であるが、心の健康についても自分に向き合っより良い状態を保つことが大切となる。

心と身体は強く結びついていて、身体の不調が意欲を削ぐのと同様に心配や不安が頭痛や腹痛、発熱を引き起こしてしまうことは決して特別なことではない。

社会に出るための準備期間であるこの時期は、精神的にも自立していく時期であり、誰しも大きな不安や心配に直面し、悩みも多くなる。しかし、それを解決していくには、一人だけで考えるよりも、多くの意見やアドバイスを取り入れて熟考することが大切である。

自分の目標に向かって集中して学習に取り組んでいかなければならない大切な学校生活を有意義に送るためにも、大きな不安や心配事を一人で抱え込むことのないようにする。

- (2) 規則正しい生活リズムを整え、自身をコントロールできる自律心を養う
社会生活の準備として、今まで以上に時間の厳守（早めの行動）や自己管理能力を養い、自分の行動や感情をコントロールできる力を身につけることを意識する。また、大人としてやるべきことを最後まで諦めない責任感や社会の一員として守るべきことを尊重する義務感などを身に

つけながら、自律を目指していく。

授業等の遅刻や欠席を極力抑え、これらが増える状況が出てきた場合は、初心を忘れずに生活を見直していくこと。また、どうしても学校へ行く気持ちになれない等、精神的な原因を少しでも感じた場合は、先生やカウンセラーにも相談をするなど、早めの対応を行う。

(3) より良い人間関係を自ら築いていけるコミュニケーション能力を養う

学校生活においては、教員・学生と良好な関係を築けるように努力すること。

社会に出てからは、様々な年齢や様々な考え方の人と協力していくこととなるため、今までの小中高での友人関係とは違う関係造りを意識する必要がある。当校の学校生活で、お互いの多様性を認め合ったりお互いを思いやったりできる平等感を養い、社会における人間関係の構築を学ぶ気持ちで普段の学校生活を過ごす。学校の行事等にも積極的に参加し、多くの人と交流を持つこと

また人間関係造りが苦手である、またはトラブルを起こすことが多いと感じている人は、先生に申し出るなどして、カウンセラーと共に課題を解決することを薦める。

第5章 表 彰

1. 卒業時表彰

卒業時において、人物や成績、出席状況などにおいて他の学生の模範と認められる学生の表彰を行う。 (略) 全動専 = 全国動物専門学校協会

名 称	対 象 者
有坂中央学園優績賞	最優秀者（1名程度）
前橋市長賞	前橋市長より成績優秀な者に与えられる（1名）
日本小動物獣医師会賞	動物愛護の精神を理解し、成績が優秀な者（1名）
全国動物専門学校協会賞	全動専主催検定合格者で優秀な者（1名）
日本愛玩動物協会賞	愛玩動物飼養管理士検定合格者で、成績が優秀な者 （各級1名）
群馬県専修学校各種学校連合会賞	各種検定試験優秀合格者（選考）
職業教育・キャリア教育財団賞	
特別功労賞	学校行事運営において積極的な学生の範たる者（選考）
ゴールド皆勤賞	入学時から卒業まで皆勤の者（2・3年制該当者全員）
シルバー精勤賞	入学時から卒業までの換算欠席 8日以内の者（3年制該当者全員）
	入学時から卒業までの換算欠席 5日以内の者（2年制該当者全員）

第6章 各種証明書発行手続等

1. 学 生 証

本校では、本校の学生であることを証するため、入学と同時に学生証（身分証明証）を発行する。学生は常に携帯し、求めがあったときは提示しなければならない。（検定受験時等）

なお、本学生証は、通学定期券並びに学生用割引乗車券の購入に際しても必要になるので、紛失しないよう注意すること。

紛失した場合は学生証紛失届並びに再発行願（有料）、記載事項に変更が生じた場合は、身上異動届をただちに提出すること。

また、退学等によって学籍を失った際は、必ず学校に返還しなければならない。有効期間は、1年間とする。

2. 各種届書一覧

種 類	内 容
授業に関する届書	やむを得ない理由により欠席・欠課・公欠・遅刻・早退する場合は、届書を提出し、担任の了解を求めること。
休学願・復学願	休学する際は休学願、復学する際は復学願を提出すること。
退 学 願	やむを得ず退学する場合提出すること。
身 上 異 動 届	住所・電話番号・保護者・保証人等が変わった場合提出すること。
学費延（分）納願	家庭の事情等、やむを得ない事情で学費の一括納入ができない場合提出すること。
事 故 報 告 書	交通事故の当事者となった場合提出すること。

*詳細については、担任に確認すること。

3. 諸証明の発行

在学証明書・卒業証明書・卒業見込証明書・成績証明書・健康診断書等については、下記の手順により発行する。

- ①学校窓口で、各種証明書発行申込書を受取り、必要事項を記入する。
- ②担任のチェックを受ける。
- ③就職指導センター窓口で、料金を添えて申込書を提出する。
- ④発行は申請してから2日後、就職指導センター窓口にて受け取る。

4. 通学定期券等の購入

(1) 通学定期券の購入

最寄りの駅で学生証を提示し各自購入すること。

(2) 学生運賃割引書

就職指導センター窓口で、運賃割引書に必要事項を記入し申し込むこと。

資 料

通 学 規 程

学校法人 有 坂 中 央 学 園

本校学生の通学について、下記のとおり定めるものとする。

第 1 章 総 則

第 1 条（目 的） 本規程は、学生の適正かつ安全な通学を確保するために定めるものである。

第 2 条（通 学 原 則） 本校への通学は、原則的に公共交通機関か徒歩、または自転車によるものとする。

第 2 章 通 学 方 法

第 3 条（届 出） 学生は本校への通学方法を通学調査票で、年度当初に届け出るものとする。

第 4 条（変 更 届） 年度当初に届け出た通学方法等に変更が生じた場合は、速やかに担任宛てに届け出るものとする。尚、通学時に生じた交通事故の学生保険への適用は、本届け出によるものとする。

第 3 章 交 通 安 全 の 確 保

第 5 条（安 全 教 育） 本校は学生の交通安全を確保するため、適宜交通安全教育を実施する。

第 6 条（安 全 義 務） 学生は常に交通法規を遵守し、自ら交通安全を確保する義務を負う。

第7条（事故の処置） 万一不慮の事故に遭遇した場合は、警察署、消防署、保険会社、家庭等に連絡すると共に、担任宛てに必ず連絡し、事後の処置について指示を仰ぐものとする。

第8条（事故の報告） 事故にあった場合は前条の処置をした後、速やかに担任宛てに所定の事故報告書を提出しなければならない。

第4章 自動車通学

第9条（許可） 本校への通学に当り、自動車及びバイク通学（以下「自動車通学」という）によらなければ勉学に支障の出る者は、本規定の範囲内で自動車通学を認める。
但し、自動車通学では交通事故の可能性や駐車場の制限等があるため、許可は最小限度に止める。

第10条（許可基準） 自動車通学の許可基準は次のとおりとし、これらの基準を充たさない者の自動車通学は、一切認めない。
尚、使用する車輛は改造車であってはならない。
（1）交通機関の便が悪く、通学に不便な者。
但し、自動車通学に切り替えても、長時間かかり、かえって危険になるおそれのある者は最寄りの駅までの許可とする。
（本条第2項も同じ）
（2）その他、自動車通学を必要とする特別な理由が認められる場合。

第11条（許可数） 許可数は、本校駐車場の許可可能の範囲内であって、年度の当初に定めるものとする。

- 第12条（申請方法） 許可の申請は下記の方法による。
- （1）申請受付は学生課が担任を通じて通知する。
 - （2）申請書類の交付は学生課の窓口にて行う。
 - （3）学生は申請書を担任に提出する。
 - （4）担任は申請の理由等を把握した上で、クラス分をまとめて副校長に提出する。
- 第13条（審査方法） 審査に当たっては、学生課が事務局として管理し、学校長・副校長・総務部長が行う。
尚、必要に応じて学校長・副校長・総務部長は当該学生を呼び、事情を聴取する。
- 第14条（許可通知） 学生課は許可した学生を担任に通知する。
- 第15条（許可証発行） 学生課は許可した学生に対して、許可証を発行する。許可された学生は、常に許可証を車庫内に所持しなければならない。また、許可車庫であることの明示について、本校の指示に従わなければならない。
- 第16条（駐車場使用） 自動車通学を許可された学生は、本校が指定する場所のみ駐車することができる。
尚、駐車にあたっては他の車庫に迷惑がかからないように注意するとともに、近隣住民に対しても迷惑をかけないように注意しなければならない。
- 第17条（盗難等） 駐車場内での事故並びに盗難については、担任および学生課まで速やかに報告し、適切な処置を講じなければならない。また、本件については本校として一切責任を負えないので、十分注意し事故等にあわないようにすること。

- 第18条（駐車代金） 本校の駐車場を使用するにあたっては、年度当初または使用開始当初に、駐車代金を学生課に納入しなければならない。
納入方法は一括前納を原則とする。また、正当な理由のない駐車場の返還については、返金の対象としない。
- 第19条（納入遅延） 期日になっても駐車代金を支払わない者に対しては、許可を取り消すものとする。
- 第20条（整備参加） 本校の駐車場を整備する必要があるときは、本校の求めに応じて整備に参加する義務を負う。
尚、正当な事由がないとき、並びに無断で参加しないときは、手不足金として駐車代金の1か月分を別途徴収する。
- 第21条（許可証返却） 自動車通学の必要がなくなったときは、直ちに許可証を返却しなければならない。

第 5 章 罰 則

- 第22条（無許可通学） 無許可で自動車通学した者、更に違法駐車をし、近隣住民に迷惑をかける行為など、本校の学生として相応しくない行為をした場合は、停学あるいは退学に処することもある。
尚、ここでの停学期間は進級基準の欠席期間に算定する。（以下同じ）
- 第23条（許可者違反） 自動車通学被許可者にあっても、本規程の定めに違反し、本校の学生として相応しくない行為をした場合は、停学・退学に処することもある。

付 則 本規程は2023年 4月 1日より施行する。